

2012MHC 登山講習 花の八ヶ岳縦走登山ー赤岳・阿弥陀岳縦走

6月30日 AM6:00、4台の車に乗り合わせ、曇空の松本を出発。高速道を走り、山麓を登り、最終美濃戸に到着。準備を整え、AM8:00 登山を開始する。総勢は19名、鬱蒼とした林道を歩き、北沢溪流沿いを進む。登山道脇には、ヤツガタケキスミレ、シロバナヘビイチゴの花々が咲く。2時間程で赤岳鉱泉を經由し AM10:45 行者小屋に到着。この頃から霧に隠れていた稜線が望まれ、主峰赤岳が空高くにその姿を現した。ここで大休止し、昼食を摂る。



北沢溪流沿いを進む



ヤツガタケキスミレ



主峰赤岳の威容

AM11:30 行者小屋を出発、赤岳、阿弥陀岳を右に見ながら、急坂の地藏尾根を登る。足元には、紅色のコイワカガミが咲き競い、山桜も満開だ。急斜面に取り付けられた階段、鎖を頼りに、赤茶けた岩場を登り続ける。西方微かに、残雪頂く御岳、乗鞍、穂高、そして槍ヶ岳の連なりが遠望される。PM1:00 涼風吹く主稜線に登り出る。稜線の東側は、雲に覆われ何も見えない。



急坂の地藏尾根を登る



イワウメ



地藏尾根と阿弥陀岳 2805m

稜線を5分ほど登り、赤岳展望荘で小休止、周辺にはウルップソウなどが咲き競い、山頂へ向う稜線に、紫花のオヤマノエンドウ、白花のハクサンイチゲ、イワウメ、チョウノスケソウ、薄紅色のキバナシクナゲが風に揺れている。

鎖を頼りに、最後の力を出し切るように急峻な岩場を攀り、しばらく稜線を辿ると、PM2:00 三角点の立つ山頂 2899mに見事全員登頂する。「バンザーイ！」握手を交わすと、皆の顔がほころぶ。残念なことに、山頂は濃霧が覆い始め、遠望が効かない。20分程で山頂を後にし、近くの頂上小屋に戻り泊す。

横岳を背景に山頂を目指す



チョウノスケソウ



主峰赤岳山頂に全員登頂

翌7月1日濃霧から小雨模様。AM6:15 出発。再び赤岳山頂を通過し、取り付けられたハシゴ、鎖を使って、切り立った岩場を滑らぬように慎重に下山する。30分程で危険箇所を通過し、文三郎尾根との分岐を右に見て、中岳を登り降りし、AM7:15 阿弥陀岳との鞍部に到着する。

相変わらず霧雨状況の中、ここから軽荷で阿弥陀岳へ向う事とする。登り初めから急峻な岩場の登攀が連続する。AM7:55 全員見事登頂。「ヤッター！」視界が効かない為、記念撮影後は、早速に下山開始、AM8:40 鞍部に引き返す。



岩稜に咲くイワウメと主峰赤岳 2899m



赤岳から望む、阿弥陀岳 2805m

鞍部からは態勢を整え、低木帯から林の中を降り続け、行者小屋を經由して AM10:15 赤岳鉱泉到着。ここで昼食を摂り、往路と同じ北沢ルートを経て PM12:30 車の待つ美濃戸到着。ここから車に同乗し、美濃戸バス停を經由して、南諏訪インターから高速に乗り、PM2:00 松本に到着。最終解散とした。

「雨中登山でも、登頂の喜びと、岩場に咲く花々のみずみずしさに感動を残す」登山だった。

MHC 登山講習責任者 MHC 理事長 鈴木雅則